

日本産鳥類記録リスト(2)

川路則友・平岡 考・梶田 学・浦野栄一郎*・
柳澤紀夫・西海 功・金井 裕・池長裕史・亀
谷辰朗(日本産鳥類記録委員会)

3. ノハラツグミ *Turdus pilaris* (表1)

日本鳥類目録改訂第6版では、記録として3例
が挙げられている。本委員会の調査により、文献
上9例の記録が確認された(表1)。

記録1(清棲 1978)は、長野県で記録されたも
ので、採集の経緯や採集された個体の形態につ
いての記述があり、測定値も掲載されている。清棲
(1978)によれば、長野県西筑摩郡木曾福島の北北
東12kmの木祖村萱にて、野溝龍太郎氏により採
集され、清棲幸保氏に送付された標本が、同氏に
より同定され、和名をノハラツグミと命名され
たものである。高島(1960)には、1960年5月3日
に開催された日本鳥学会総会の席上で、この標本が
供覧されたこと、船舶により日本に迷行したの
であろうという意見を清棲氏が否定したことが記
述されている。標本は、現在山階鳥類研究所に保
管されており(標本番号:山階鳥類研究所99-0244)、
標本に附属しているラベルには、採集地として
「長野県木曾郡木祖村」とのみ記述がある。この
記録は、日本初記録として多くの文献に引用さ
れている(内田1972, 坂本1989, Brazil 1991, 日本
野鳥の会長野支部 2000など)。このうち、内田
(1972)で記録月が2月とされているのは、誤植ま
たは誤引用と思われる。

記録2(草野1988)は、長野県戸隠で記録され
たもので、日本野鳥の会東京支部主催の探鳥会
で内田康夫氏ほか数名が観察と記述されている
のみである。同記録の観察状況は、内田(1972)
に詳述されており、その中に「一瞬、ノハラツ
グミ!と直感したが、くわしい観察のできないう
ちに、その姿を見失ってしまった。」との記述
がある。

記録3(日本野鳥の会1988)は、長野県長野
市で記録されたもので、記録年月日、場所、記
録者のみの記述しかない。この記録は、日本
野鳥の会長野支部(2000)に引用されている。

記録4(坂本1989)は、神奈川県伊勢原市
で記録されたもので、観察状況や行動、形態
についての詳しい記述が掲載されている。この
個体は約3週間滞在したことが確認されてお
り(坂本1989)、

日本野鳥の会神奈川支部(1992)にも、「1988.2.14
に坂本堅五, 同 2.15に塩沢徳夫, 同 2.20に西ケ
谷修一の観察あり」との記述がある。滞在期間
中に撮影された同一個体の写真は、石井・山形
(1992), バーダー編集部(1994), 五百沢ら(2000)
に掲載されている。また、撮影年の記述がない
ものの、撮影場所と撮影月が一致することから
本個体と推測される写真が、叶内ら(1998), 真木・大
西(2000)に掲載されている。なお、前者は撮影
された個体を「第1回冬羽と思われる」、後者は
「成鳥」としている。

記録5(Brazil 1991)は、埼玉県浦和市で記
録されたもので、記録年月と場所のみ記述され
ており、正確な記録日についての記述は欠けて
いる。私信(Morioka in litt.)に基づく記述
であり、記録者については明記されていない。
なお、他に、この記録を裏付ける文献は発見
できなかった。

記録6(日本野鳥の会野鳥記録委員会1992)は、
北海道羅臼町で記録されたもので、記録年月日、
場所、記録者、写真の有無のみの記述しか
ない。「写真あり」との記述があるが、掲載は
されていない。なお、日本野鳥の会(1992)で、
同記録の記録者のひとり「上田季雄」となっ
ているのは、誤植である(正しくは「秀雄」)。

記録7(藤巻2000)は、北海道根室市で記
録されたもので、新聞記事(1993年2月26日
付け北海道新聞)を引用したことが明記されて
いる。また、同文献には記録年月日、場所の
みの記述しかなく、記録者についての記述が
欠けているが、北海道新聞社(1997, 2002)に
本個体と推測される(撮影場所と撮影年月が
一致する)写真が掲載されており、いずれも
撮影者は、三浦昌之氏である。なお、バー
ダー編集部(1993)には、松尾武芳氏からの
情報提供として、北海道根室市内において、
ノハラツグミ1羽が1993年2月24日から3月
9日現在、飯沢謙治氏によって観察されてい
ることが記述されている。記録場所と記録年
月日から、この記述は記録7の個体について
のものと推測される。

記録8(バーダー編集部2002)は、千葉県
成田市で記録されたもので、掲載されてい
る写真の撮影年月日と場所、撮影者が掲載
されている他、森岡照明氏による個体の年
齢や過去の記録などについての解説が掲載
されている。また、写真の掲載とは異なる
ページ(p. 107)に撮影者による観察状況
についての短いコメントが掲載されている。

表1. ノハラツグミ *Turdus pilaris*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1960.1.25	長野県	西筑摩郡	—	オス	1	野溝龍太郎	採集, 標本	—	11	4, 18, 21, 22, 23
2	1967.11.5	長野県	戸隠	—	—	—	内田康夫 他	観察	—	12	23
3	1985.10.26	長野県	長野市飯縄山	—	—	—	小出由美子, 小出久	観察	—	14	18
4	1988.2.11-3.4	神奈川県	伊勢原市日向	—	オスと 思われる	1	坂本堅五	観察, 撮影	モノクロ4	21	2, 8, 9, 10, 13, 16
5	1989.2.-3.	埼玉県	浦和市	—	—	1	—	観察	—	4	—
6	1991.2.22	北海道	羅臼町羅臼港	—	—	1	上田秀雄, 叶内拓哉 他	観察, 撮影	—	19	15
7	1993.2.24	北海道	根室市	—	—	—	—	—	—	—	—
8	2001.4.9	千葉県	成田市下総松崎	第1回夏羽 である	—	—	黒田益次	観察, 撮影	— (関連文献にあり) カラー1, 黒田益次	5 3	1, 6, 7
9	2001.10.20	石川県	輪島市舳倉島	—	—	—	尾崎由紀	観察, 撮影	カラー1, 尾崎由紀	17	20

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述 (種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など) のみ

記録9 (日本野鳥の会石川支部 2002) は, 石川県舳倉島にて記録されたもので, 形態や同定の根拠などについての記述があり, 記録された環境と季節から, かご抜けでないと判断し, 石川県初記録としている. この記録の観察状況は, 尾崎(2002)にも詳述されている.

引用文献 (文献番号は, 表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. バーダー編集部 (1993) 最近何か出ていますか? — 野鳥情報ネットワーク—. BIRDER 7(5): 64-65.
2. バーダー編集部 (1994) 大型ツグミカレンダー. BIRDER 8(4): 10-17.
3. バーダー編集部 (2002) 写真集 日本の鳥 2001. 文一総合出版. 108 pp. (写真掲載は, p. 94)
4. Brazil, M. A. (1991) The birds of Japan. Christopher Helm, London. 466 pp.
5. 藤巻裕蔵 (2000) 北海道鳥類目録. 改訂2版. 帯広畜産大学野生動物管理理学研究室. 62 pp.
6. 北海道新聞社 (編) (1997) 最新版北海道の野鳥. 北海道新聞社. 345 pp. (写真掲載は, p. 317)
7. 北海道新聞社 (編) (2002) 北海道の野鳥. 北海道新聞社. 384 pp. (写真掲載は, p. 117)
8. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2000) 日本の鳥 550 山野の鳥. 文一総合出版. 360 pp. (写真掲載は p. 194)
9. 石井照明・山形則男 (1992) 珍鳥迷鳥大集合! BIRDER 6(2): 4-5, 8-9, 12-13, 16-17, 19, 22-23, 26-27, 30-31.
10. 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄 (1998) 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 山と溪谷社. 623 pp. (写真掲載は, p. 489)
11. 清棲幸保 (1978) 増補改訂版日本鳥類大図鑑I. 講談社.
12. 草野荘平 (1988) ノハラツグミについて一言. ユリカモメ (390): 13.
13. 真木広造・大西敏一 (2000) 日本の野鳥 590. 平凡社. 654 pp. (写真掲載は, p. 483)
14. 日本野鳥の会 (1988) フィールドノート. 野鳥 53(7): 39.
15. 日本野鳥の会 (1992) フィールドノート. 野鳥 57(11): 49.
16. 日本野鳥の会神奈川支部 (1992) 神奈川の鳥 1986-91—神奈川県鳥類目録II—. 440 pp.
17. 日本野鳥の会石川支部 (2002) 石川野鳥年鑑2001. 98 pp. (写真掲載は, 口絵)
18. 日本野鳥の会長野支部 (2000) 長野県鳥類目録3—繁殖鳥類分布図—1999. 149 pp.
19. 日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1992) 野鳥情報・観察記録 1991.8-1992.7. Strix 11: 377-382.
20. 尾崎由紀 (2002) 舳倉のノハラツグミ発見記. 石川野鳥年鑑2001: 72.
21. 坂本堅五 (1989) 伊勢原市日向に飛来したノハラツグミについて. 神奈川県立自然保護センター報告 (6): 51-54.

- 22. 高島春男 (1960) (タイトルなし). 動物分類学会会報 (23): 11.
- 23. 内田康夫 (1972) 日本迷鳥録 11 ノハラツグミ *Turdus pilaris*. 朝日ラールズ週間世界動物大百科 (75): 2.

4. ワキアカツグミ *Turdus iliacus* (表2)

日本鳥類目録改訂第6版では、記録として7例が挙げられている。本委員会の調査により、文献上12例の記録が確認された(表2)。

記録1(日本鳥学会 1942)は、千葉県保田で採集された個体についてのもので、採集年と季節、採集場所、および、標本が初山徳太郎氏所蔵であることについての記述しかない。この標本は、現在、山階鳥類研究所に所蔵されている(山階鳥類研究所標本番号: 初山39.0103)。標本に附属しているラベルには、捕獲されたのが1933年秋で、死亡したのは1939年11月1日であること、古川龍城氏から譲られたものであることなどが記述されている。この記録は日本初記録として Austin & Kuroda (1953), 清棲 (1978), 小林 (1980) などに掲載されている。

記録2 (Brazil 1991) は、北海道釧路市で記録されたもので、記録年月日と場所のみが記述されている。私信 (Hayashida T. in litt.) による記述であり、記録者については明記されていない。この記録は、北海道新聞社 (1997, 2002) にも掲載されており、他にこの記録を裏付ける文献も発見できなかった。

記録3 (石川県 1977) は、石川県七ツ島大島で記録されたもので、石川県初記録として「石川県鳥類目録」の備考欄に掲載されているが、記録年月日、場所、記録者のみの記述しかない。なお、記録者として同備考欄に掲載されている「調査団A」は、石川県 (1977) の別表によれば、松田 衛氏他9名とNHKの取材班から構成されていたものである。石川県環境部(1986)の「七ツ島鳥類目録」、石川県 (1998) の「七ツ島鳥類リスト」、日本野鳥の会石川支部 (1990) の「鳥類リスト」の中には、本種が含まれており、出典は示されていないものの、この記録に基づくと推測される。しかし、1987年から1997年までに石川県で確認された種と、それ以前に記録があった種のうち、標本、写真による記録が明確なものを再検討して掲載した、石川県 (1998) の「鳥類目録」には、この記録が掲載されていない。

記録4 (日本野鳥の会 1978) は、山口県山口市で記録されたもので、写真とともに観察した際の

表2. ワキアカツグミ *Turdus iliacus*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1933.秋	千葉県	安房郡保田	成鳥	メス	1	初山徳太郎	採集, 標本	—	17	1, 12, 13
2	D	北海道	釧路市	—	—	1	—	観察	—	3	—
3	D	石川県	七ツ島大島	—	—	1	松田 衛 他	—	—	8	9, 10, 21
4	1978.2.24-3.3	山口県	山口市平井	—	—	1	山口大学野鳥研究会	観察, 撮影	モノクロ1, 朔	18	14, 25
5	1979.5.1	山梨県	見島	—	—	1	徳王麟平	観察, 撮影	—	27	—
6	1979.5.2	山梨県	見島宇津	—	—	1	武下雅文	観察	—	19	3, 13, 29
7	1983.3.18	北海道	釧路市	—	—	1	藤波不二雄	観察	—	4	5
8	1983.11.23	沖縄県	金武町並里	—	—	1	McWhirter	観察	—	15	23, 24
9	D	山梨県	見島	—	—	—	武下雅文	—	—	26	—
10	D*	北海道	札幌市豊平区羊ヶ丘森総研宿舎	—	—	1	森 純子, 森 茂太	観察, 撮影	— (関連文献にあり)	22	5, 6, 7, 16, 20
11	1996.10.30	北海道	苫小牧市宮ノ森町	第1回冬羽	—	1	佐田正行	捕獲, 標識	モノクロ1, 佐田正行	29	5
12	2001.3.16	根室市	松江市松江城山公園	第1回冬羽	—	1	北脇 努	観察, 撮影	カラー1, 北脇 努	2	—

—: 記述なし・掲載なし
 D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ
 D*: 出典には、最小限の記述しかないが、関連文献に詳細な記述あり

状況の記述が掲載されている。同一個体の記録は、小林 (1978) にも掲載されているが、記録地は「山口市吉田」、記録者は「朔元洋、西村文彦、三宅貞敏」と記述されている。なお、同一個体の記録と写真は、高野 (1981) にも掲載されている。

記録5 (徳王 1980) は、山口県の離島である見島で記録されたもので、観察状況が記述されている。なお、「撮影に成功した」と書かれているが、写真の掲載はされていない。

記録6 (日本野鳥の会 1979) は、山口県見島にて記録されたもので、観察状況の簡単な記述が掲載されている。記録5の翌日に記録されていることから、記録5と同一個体である可能性もあるが、その点について言及した文献がないので、別個の記録として扱った。この記録は、小林 (1980) にも掲載されているが、記録地が「北九州宇津」となっている (正しくは、山口県見島宇津)。なお、Brazil (1991) には、私信 (Shigeta & Morioka in litt.) による記録として、1979年4月29日に山口県見島での観察記録が掲載されているが、これは、日本野鳥の会 (1979) 掲載の日本野鳥の会北九州支部による第4次見島調査開始日 (1979年4月29日) をワキアカツグミ観察日 (同年5月2日) と混同したもので、記録6の誤引用である。この誤引用は、そのまま、山階鳥類研究所 (1997) にも引用されている。

記録7 (藤波 1985) は、北海道釧路市で記録されたもので、詳しい観察状況が記述されている。なお、この記録は、藤巻 (2000) にも掲載されている。

記録8 (McWhirter et al. 1996) は、沖縄県金武町で記録されたもので、観察状況や同定の根拠が Appendix に詳述されている。なお、沖縄野鳥研究会 (1993, 2002) には、1984年に金武町の水田で記録されたとの記述があるが、著者からの私信によれば、いずれも記録年の誤植 (正しくは1983年) であり、記録7と同一記録とのことである。

記録9 (武下 1993) は、山口県見島で記録されたもので、記録年月日と場所のみの記述しかない。

記録10 (日本野鳥の会野鳥記録検討会 1996) は、北海道札幌市で記録されたもので、記録年月日、場所、記録者、写真の有無のみの記述しかない。「写真あり」との記述があるが、掲載はされていない。同一記録は、日本野鳥の会 (1995)、森 (1995) にも掲載されている。特に森 (1995) には、写真付きで詳しい観察状況や初認後1ヶ月程滞在したことが記述されている。また、北海道新聞社

(1997, 2002) に本個体と推測される (撮影場所と撮影時期が一致する) 写真が掲載されている。この記録は、藤巻 (2000) にも掲載されている。

記録11 (山階鳥類研究所 1997) は、北海道苫小牧市で環境庁の標識調査中に記録 (捕獲) されたもので、写真とともに記録年月日、場所、記録者、装着された標識脚環の番号、測定値が掲載されている。なお、この記録は、藤巻 (2000) にも掲載されている。

記録12 (バーダー編集部 2002) は、島根県松江市で記録されたもので、掲載されている写真の撮影年月日と場所、撮影者が掲載されている他、森岡照明氏による個体の年齢や過去の記録などについての解説が掲載されている。また、写真の掲載とは異なるページ (p. 107) に撮影者による、行動に関する短いコメントが掲載されている。

その他の記録として、1868年から1986年にかけて山形県内で確認された鳥類を掲載した山形県産鳥類目録編集委員会 (1988) に、本種が含まれている。しかし、リストに種名が挙げてあるのみで、記録に関する具体的な記述はないので、参考として挙げる。なお、この記録の基となった可能性のある本種の標本1体 (オス第一回冬羽・山形県山形市常明寺にて1975年1月15日採集。採集者; 高橋三郎氏) が山形県立博物館に所蔵されているとのことである (五百沢日丸氏私信)。この標本記録に関しても、記述した文献が発見できなかったため、参考として挙げるにとどめる。

また、石川県 (1998) の「鳥類目録」中のワキアカツグミの項に「七尾少年科学館に中島町産標本が残っている」との記述があるが、記録年月日等、具体的な記述はない。加えて、七尾市少年科学館の鳥類標本目録である、川端 (2001) にワキアカツグミの記述がないことから、この記録も参考として挙げるにとどめる。

引用文献 (文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. Austin, O. L. & Kuroda, N. (1953) The birds of Japan: Their status and distribution. Bull. Misc. Comp. Zool. Harvard **109**(4): 279-613.
2. バーダー編集部 (2002) 写真集 日本の鳥 2001. 文一総合出版. 108 pp. (写真掲載は, p. 91)
3. Brazil, M. A. (1991) The birds of Japan. Christopher Helm, London. 466 pp.
4. 藤波不二雄 (1985) 北海道探鳥記. ワイルドライフレポート (1): 37-50.
5. 藤巻裕蔵 (2000) 北海道鳥類目録 改訂2版. 帯広畜産大学野生動物管理学研究室.

6. 北海道新聞社 (編) (1997) 最新版北海道の野鳥. 北海道新聞社. 345 pp. (写真掲載は, p. 316)
7. 北海道新聞社 (編) (2002) 北海道の野鳥. 北海道新聞社. 384 pp. (写真掲載は, p. 118)
8. 石川県 (1977) 石川県の自然環境 第3分冊鳥獣. 石川県.
9. 石川県 (1998) 石川県の自然環境シリーズ 石川県の鳥類. 183 pp.
10. 石川県環境部 (1986) 舩倉島・七ツ島の自然. 石川県環境部自然保護課.
11. 川端義信 (2001) 七尾市少年科学館所蔵標本目録剥製鳥類標本目録. 七尾市少年科学館研究報告. (5): 71-82.
12. 清棲幸保 (1978) 増補改訂版日本鳥類大図鑑 I. 講談社.
13. 小林桂助 (1980) 原色日本鳥類図鑑 (新訂版). 保育社.
14. 小林繁樹 (1978) 山口県で新しく記録された野鳥 10 種. 山口県の自然 4(9): 19-22.
15. Mc Whirter, D. W.・池長裕史・五百沢日丸・庄山守・高原健二 (1996) A Check-list of the birds of Okinawa Prefecture with notes on recent status including hypothetical records (最近の生息状況と参考記録を含めた沖縄県産鳥類目録). 沖縄県立博物館紀要 (22): 33-152.
16. 森純子 (1995) ワキアカツグミが来た. 北海道野鳥だより (100): 15.
17. 日本鳥学会 (1942) 日本鳥類目録 改訂三版.
18. 日本野鳥の会 (1978) 短報—野鳥情報—. 野鳥 43(9): 502-503.
19. 日本野鳥の会 (1979) 短報—野鳥情報—. 野鳥 44(11): 688-689.
20. 日本野鳥の会 (1995) フィールドノート. 野鳥 60(7): 47.
21. 日本野鳥の会石川支部 (1990) 石川の自然野鳥. 橋本確文堂. 184 pp.
22. 日本野鳥の会野鳥記録検討会 (1996) 野鳥情報・観察記録 1994.8-1995.7. Strix 14: 205-211.
23. 沖縄野鳥研究会 (1993) 改訂沖縄県の野鳥. 沖縄出版. 299 pp.
24. 沖縄野鳥研究会 (2002) 沖縄の野鳥. 新報出版. 335 pp.
25. 高野伸二 (1981) 日本産鳥類図鑑. 東海大学出版会.
26. 武下雅文 (1993) 見島の鳥. 自費出版. 91 pp.
27. 徳王麟平 (1980) 見島でワキアカツグミ. 北九州野鳥 12(4): 6.
28. 山形県産鳥類目録編集委員会 (1988) 山形県産鳥類目録. 日本野鳥の会山形県支部. 16 pp.
29. 山階鳥類研究所 (1997) 平成 8 年度環境庁委託調査鳥類標識調査報告書. 219 pp.

5. ウタツグミ *Turdus philomelos* (表 3)

日本鳥類目録改訂第 6 版では, 亜種を同定できない, 同定に疑問がある, 自然分布とするには疑問があるなどの理由で, 検討中の種とされている.

表 3. ウタツグミ *Turdus philomelos*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	D 1987.11.19-27	神奈川県	横浜市上郷町横浜自然観察の森	—	—	1	古南幸弘 他	観察	— (関連文献にあり)	10	1, 3, 4, 5, 6, 7, 16
2	1991.10.16	埼玉県	川口市道合	—	—	1	野口 睦	保護, 死亡	モノクロ 2	12	11
3	1995.4.20, 21, 30	大阪府	大阪市大坂城公園市民の森	—	—	1	宇賀神美智子, 上野律子, 岡本靖雄, 小林昌夫	観察, 撮影	モノクロ 1, 加藤俊二	15	9, 13, 14, 17
4	1997.10.13	広島県	広島市中区広島城	—	—	1	太田裕美子, 佐伯昌彦	観察	—	2	

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述 (種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など) のみ

本委員会の調査により、文献上4例の記録が確認された(表3)。ただし、それら4例のうち、1例(記録2)については、後に誤同定であることが明らかとなり、もう1例(記録3)についても誤同定の可能性が指摘されている。

記録1(日本野鳥の会野鳥記録委員会1988)は、神奈川県横浜市で記録されたもので、記録年月日、場所、記録者のみの記述しかない。上記文献や同じ記録について記述した日本野鳥の会(1988a)には、写真撮影に関する記述はないが、同一個体の写真は日本野鳥の会(1988b)、野鳥記録委員会(1992)、石井・山形(1992)、バーダー編集部(1994)、五百沢ら(2000)に掲載されている。またBrazil(1991)にもこの記録が掲載されている。なお、この記録の同定の経緯については、野鳥記録委員会(1992)に詳述されている。

記録2(埼玉県野鳥の会1991)は、埼玉県川口市で記録されたもので、写真とともに記録された経緯についての記述が掲載されている。それによれば、この個体は、ネコがぐわえてきたところを保護され、病院に運ばれたが、同日中に死亡したとのことである。埼玉県生態系保護協会(1993)によれば、本個体は死亡後、詳しい鑑定のために山階鳥類研究所へ寄贈され、mtDNAのチトクロームb領域の遺伝子配列が解析された。その結果、クロツグミの同一領域と比較して620塩基中、619塩基が一致したことから、同個体はクロツグミであると再同定された。この個体はその後、標本にされ、現在は山階鳥類研究所に所蔵されている(標本番号:山階鳥類研究所91-0265)。

記録3(宇賀神1995)は大阪府大阪市で記録されたもので、写真とともに観察された個体の形態的特徴について比較的詳しい記述が掲載されている。この記録の個体は、塩田(1995)によっても、ウタツグミの基亜種*Turdus philomelos philomelos*の成鳥と同定されたが、その後、吉田(1995)によってクロツグミのメスである可能性が指摘されている。ちなみに、日本野鳥の会大阪支部(2001)では、「参考記録について」の項で、本記録の個体について、「一旦はウタツグミとされたが、その後同定に疑問が呈され保留となっている」とのみ記述しており、「鳥類目録—本文—」にも「参考記録」にもウタツグミは含まれていない。なお、園部(1997)には、本記録と記録1を基にしたと推測される、「大阪(4月)と神奈川(11月)から2例の記録があるだけの迷鳥」との記述がある。

記録4(バーダー編集部1997)は、広島県広島

市で記録されたもので、佐伯昌彦氏からの情報として、形態的特徴や同定根拠についての短い記述が掲載されている。また、写真を撮影できなかったこと、記録日以後は観察されなかったことについても記述されている。なお、この記録は、日本野鳥の会広島支部(2002)には掲載されていない。

引用文献(文献番号は、表中の典拠および関連文献欄の数字に対応)

1. バーダー編集部(1994)大型ツグミカレンダー。BIRDER 8(4): 10-17.
2. バーダー編集部(1997)最近何か出てますか?—野鳥情報ネットワーク—。BIRDER 11(12): 86-89.
3. Brazil, M. A. (1991) The birds of Japan. Christopher Helm, London. 466 pp.
4. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2000)日本の鳥550山野の鳥。文一総合出版360 pp。(写真掲載は、p. 196)
5. 石井照明・山形則男(1992)珍鳥迷鳥大集合! BIRDER 6(2): 4-5, 8-9, 12-13, 16-17, 19, 22-23, 26-27, 30-31.
6. 日本野鳥の会(1988a)フィールドノート 野鳥 53(8): 42.
7. 日本野鳥の会(1988b)日本に舞い降りた野鳥たち。野鳥 53(4): 10-21.
8. 日本野鳥の会広島支部(2002)ひろしま野鳥図鑑(増補改訂版)。中国新聞社267 pp.
9. 日本野鳥の会大阪支部(2001)大阪府鳥類目録2001. 135 pp.
10. 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1988)野鳥情報・観察記録1988.1-1988.12. Strix 7: 305-308.
11. 埼玉県生態系保護協会(1993)1991年10月にウタツグミとして発表した野鳥はクロツグミでした—DNA分析で野鳥の種類を判定—。ナチュラルアイ(72): 10.
12. 埼玉県野鳥の会(1991)日本初記録と県内2例目の珍鳥2種。ナチュラルアイ(56): 2.
13. 塩田 猛(1995)ウタツグミ(*Turdus philomelos*)について。むくどり通信(118): 8-9.
14. 園部浩一郎(1997)ウタツグミ。日高敏隆監修。日本動物大百科4鳥類II: 109。平凡社。
15. 宇賀神美智子(1995)大阪の鳥No. 310ウタツグミ。むくどり通信(118): 8.
16. 野鳥記録委員会(1992)ウタツグミはウタツグミだった顛末記。野鳥 57(6): 49.
17. 吉田 學(1995)ウタツグミか—クロツグミか—。むくどり通信(119): 3-5.

6. ヤドリギツグミ *Turdus viscivorus* (表4)

日本鳥類目録改訂第6版では、論文として公表されていないという理由で、検討中の種とされている。本委員会の調査により、文献上5例の記録が確認された(表4)。

表4. ヤドリギツグミ *Turdus viscivorus*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	P 1984.2.8	愛知県	名古屋市内小幡緑地	—	—	1	木村孝太	観察, 撮影	カラ—1, 木村孝太	9	2, 3, 5, 6, 12
2	D 1993.11.3	石川県	舳倉島	—	—	1	杉坂学	観察	—	1	—
3	D 1996.5.14	山形県	飛鳥	—	—	—	田儀周久	観察	—	11	13, 14
4	1998.11.3	福岡県	新宮町相島	—	—	1	宮崎八州雄	観察, 撮影	モノクロ1, 宮崎八州雄	8	3, 7
5	1999.10.15	石川県	輪島市海士町舳倉島	成鳥と思 われる	—	1	大橋俊一, 十亀茂樹, 尾崎雄二 他	観察, 撮影	モノクロ1, 尾崎雄二	4	3, 10

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

P: 写真と最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

記録1(日本野鳥の会1988)は, 愛知県名古屋
市で記録されたもので, 掲載されている写真の撮
影年月日と撮影場所のみが記述されている. この
記録は, 最初, 園部(1986)によって紹介された
(文献中で使用された和名はヤドリギジナイ). 日
本野鳥の会(1988)および園部(1986)に示されてい
る記録年月日は, いずれも1984年2月8日のみで
あるが, Brazil(1991, 2003)には, 1984年2月8日
から少なくとも同年3月28日まで観察されたとの
記述がある. さらに, Brazil(2003)で, 本記録個
体のモノクロ写真が掲載され, 当時の生態, 行動
に関する詳しい記述がされ, 地理的分布, サイズ,
羽色などの特徴から, 亜種 *bonapartei* の可能性が
高いとの議論も行っている.

同一個体の写真は, 五百沢ら(2000)に掲載され
ている. また, 撮影年の記述がないものの, 撮影
場所と撮影月が一致することから本個体と推測さ
れる写真が, 叶内ら(1998)に掲載されている. な
お, 叶内ら(1998)は, 本個体の年齢について「若
鳥と思われる」と記述している.

記録2(バーダー編集部1993)は, 石川県舳倉
島で記録されたもので, 記録月日, 場所, 個体数,
記録者のみの記述しかない.

記録3(日本野鳥の会山形県支部研究部1994)
は, 山形県飛鳥で記録されたもので, 記録年月日,
場所, 記録者のみの記述しかない. 日本野鳥の会
山形県支部研究部(1994)に記録の出典として引用
されている, 田儀(1993a, b)にも, 種名があげら
れているのみで, 観察状況や同定の根拠について
は全く記述がない.

記録4(宮崎2002)は, 福岡県新宮町の沖にあ
る相ノ島(文献中では相島と表記されている)で
観察されたもので, 観察時の状況などが写真とと
もに掲載されている. 同記録は, 最初, 宮崎
(1988)によって, 簡単な観察状況が報告されてい
る. また, Brazil(2003)にもこの記録が記述され
ている.

記録5(平野・尾崎2002)は, 石川県舳倉島で
記録されたもので, 写真とともに観察状況, 形態
的特徴, 行動, 同定の根拠などについての記述が
掲載されている. また, 年齢について「嘴が黒い
ことから, 成鳥と思われる」との記述がある. こ
の記録は, 日本野鳥の会石川支部(2000)にも写真
とともに掲載されている. 日本野鳥の会石川支部
(2000), 平野・尾崎(2002)は, この記録を石川県
初記録としており, 前述の記録2については, 言
及していない. ただし, 日本野鳥の会石川支部

(2000) には「舢倉島では今まで何度かヤドリギツグミの噂があったが、証拠写真が撮影され、石川支部に送られてきたのは初めてである。」、平野・尾崎(2002)には「今まで舢倉島においてヤドリギツグミが観察されたという噂は何度もあったが、証拠写真が撮られ確認されたのは本個体が初めてである」との記述がある。Brazil(2003)にもこの記録が記述されている。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. バーダー編集部(1993)最近何か出ていますか?—野鳥情報ネットワーク—. BIRDER 7(1): 62–63.
2. Brazil, M. A. (1991) The birds of Japan. Christopher Helm, London. 466 pp.
3. Brazil, M. A. (2003) Mistle Thrush *Turdus viscivorus*: New for Japan. J. Yamashina Inst. Ornithol. 34(2): 320–324.
4. 平野賢次・尾崎雄二(2002)石川県におけるヤドリギツグミの初記録. STRIX 20: 179–180.
5. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2000)日本の鳥 550 山野の鳥. 文一総合出版. 360 pp. (写真掲載は p. 197)
6. 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄(1998)山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 山と溪谷社. 623 pp. (写真掲載は p. 487)
7. 宮崎八州雄(1998)相島でヤドリギツグミ. 野鳥だよりふくおか(230): 8.
8. 宮崎八州雄(2002)本邦二例目のヤドリギツグミの記録. 佐賀自然史研究(8): 28.
9. 日本野鳥の会(1988)日本に舞い降りた野鳥たち. 野鳥 53(4): 10–21.
10. 日本野鳥の会石川支部(2000)石川野鳥年鑑1999. 90 pp. (写真掲載は, p. 59)
11. 日本野鳥の会山形県支部研究部(1994)山形県初記録の野鳥. やませみ(35): 15–16.
12. 園部浩一郎(1986)野鳥識別ノート11新たに記録された野鳥. 野鳥 51(4): 6.
13. 田儀周久(1993a)飛鳥と粟島と舢倉島. むくどり通信(104): 3–4.
14. 田儀周久(1993b)山形と大阪の鳥の違いについて. やませみ(33): 9–11.

* 第1期(1999–2001)記録委員